

事業報告書

1 支援団体名	特定非営利活動法人 九州流域連携会議
2 事業名称	第12回九州「川」のワークショップ in 福岡
3 実施日時	平成24年10月6～7日
4 実施場所	福岡大学中央図書館 1F 多目的ホール
5 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業概要状況・内容)*できるだけ詳細に</p> <p>[目的] 九州の水環境を守り、育み、創るため九州各地の流域で活動する市民・団体や行政が一同に会し各々の活動や取組みの発表を通し意見や情報を交換・交流することで「いい川」とは「いい川づくり」とは何かを探りよりよい水環境を育むとともに水環境への意識向上啓発と水防災意識の向上を検討する。</p> <p>[内容][実施方法] <10月6日(土)>大会委員長挨拶 福岡大学副学長今泉博国 13時～15時半○北部九州豪雨に見舞われた地域からの報告と今後の連携 6地域流域からの報告(震災と防災と自立) 竹田 玉来川 別府市の幸野氏、日田 花月川 田中全氏、熊本 白川 志水氏 熊本 菊池川 山崎氏、杷木 赤谷川 平田氏、星野黒木柳川 松延氏 ～17時ステージ発表 子供の部発表(河川のあらゆるものに関するもの) (部門共通)発表時間/発表:3分、質疑応答:2分 8団体で1グループ。コーディネーターは1グループに2人行政と民間で発表及び質疑の進行 ・発表は自由で歌や踊り人形劇等工夫が凝らされていた。複数での発表が多数。 液プロジェクターを使う川や活動風景の写真は、3枚を原則として行いました。 是まで発表内容のバリエーションを条件としていたが参加者の負担になるとの声に答えて作成は自由とした。 ～18時小水力エネルギーを地域のために(問題提起) 18時半～○全体交流会(有料)場所:ひだまり ・福岡の幸で懇親交流会。同じ川仲間、水環境仲間として交流。 ・地域の自慢の食物や飲物の持込みし地域を生かして交流を図った。 <10月7日(日)> 9時半～11時○ステージ発表 大人の部、学生の部発表 11時～12時半 ○全体討論会 <講演と提案>近年の異常降雨や出水に対する防災意識の啓発と川づくりと防災体制づくり 木ノ下氏 災害多発の今、NPO の果たす役割と防災を考えた活動を検討しながら防災意識の啓発と自立を探る。防災は自助共助公助が原則 報告提案を受けて全体討議 水害を契機に九州流域連携はどうすべきか 災害復旧時に守るべき環境は ・今回のワークショップを通して見いだされた活動や事業のキーワードを探り、これからの九州流域における豊かな自然と人間が共存していくための取組みを全体で論議。 (事業実施効果) [結果] 発表団体は、38団体の参加。参加者数は二日間延約420名。 両日とも行政の呼びかけもあって九州地方整備局や福岡県の行政職員多数参加。 九州20河川の流域で活動する団体、関心のある個人、学識者、河川行政に携わる行政関係者が一同に会し情報交換交流する年一回の唯一の機会となっています。 例年九州7県を持ち回りし2巡目以降は現地実行委員会を中心に開催地の主体性と特徴を出せるように工夫し実施してきた。今回は福岡都市圏流域開催できたのもこれまでの継続したワークショップ事業が一つの役割を果たしていることの流れであり、取組を通じて行政との協働も推進され、長崎、佐賀、宮崎、熊本県と同様に、福岡都市圏流域も開催と行政の積極的な取組を通じてネットワーク化と協働が推進されている。 [河川管理者との連携状況] もともと九州流域連携会議は、活発化しつつある住民団体の活動の更なるネットワークの広がりや連携を河川管理者と協働で実践できる仕組みづくりとして発足した中間支援組織であり、九州地方整備局との意見交換の場所としての役割がある。現在九州にある直轄1級河川の流域団体の代表で構成されている。 事業実施に当たっては、実行委員会をNPO法人九州流域連携会議理事、九州地方整備局、開催地福岡県、福岡市ならびに市民活動団体で構成することにより6～8ヶ月に渡り委員会を重ね福岡都市圏流域らしさを探り知恵を出し合う取組を通じて連携協働は良好で深まっている。 近年の想定外の出水や豪雨に対し、生き抜く知恵探いを検討することができた。 例年、多数の行政の参加が得られ益々の協働が実感できた。 運営進行は九州各県の関心を持つ学生21名ほどを中心に準備から当日二日全てを学生が主体となり推進運営し、河川への関心をさらに高める人材育成にもその役割を果たしてきた。それはワークショップ育ちの学生が今度は行政マンとして参加する姿は年々増え続けている。</p>

6 参 加 内 訳	<p>発表団体は 38 団体。参加者数は二日間延約 420 名程。</p> <p>九州 20 河川の流域で活動する団体、関心のある個人、学識者、河川行政に携わる行政関係者が一同に会し情報交換交流する年一回の唯一の機会となっている。</p>
7 今 後 の 方 針	<p>例年九州 7 県を持ち回りし 2 巡目以降は現地実行委員会を中心に開催地の主体性と特徴を出せるように工夫し連携して実施してきた。</p> <p>これまでも長崎県、佐賀県、宮崎県、熊本県」などで開催をきっかけに流域での活動団体のネットワーク化が推進されて来ている。これからも現地実行委員会で地域テーマを議論し、地域と行政が協働し地域を生かした新たなワークショップに取組み作り上げて行く。又、災害多発の近年、行政の積極的な取組もあり本省から水防災視点から川づくりの話題提供報告や震災東北からの報告があり災害多発の今、を生き抜く知恵と NPO の果たす役割を検討することができた。例年ない行政の参加が得られ益々の協働が実感できた。また、地域のイベントとの同時開催コラボを検討するなど経費の抑制や効率化、一般参加者も気軽に参加できるような工夫を検討する。</p>



●福岡湿地保全研究の魅力を発表する中学生



●与座渉活動の様子



●川も楽しく人も楽しく夜も昼も楽しく川内川 ●YNHC 活動の様子



●遠賀川に鮎 直方川づくりの発表の様子



●水害情報提供を発表する九州地方整備局皆さん